

研究課題名	頸椎 CT における後頭骨から上位頸椎にかけての正常値に関する研究
研究期間	平成 27 年 12 月 11 日から平成 30 年 3 月 31 日まで
研究の意義と目的	過去の報告（整形外科放射線診断学 南江堂、）では、頸椎の異常を表す指標として X 線で距離や角度を測定し異常か正常かの判断を行っていますが、頸椎 CT については X 線と同様にパラメーターを使用した報告は少ないのが現状です。CT は頸椎 X 線側面像に比べて、再構築した画像で頭蓋骨・頭頸移行部の形態を鮮明に映し出すことができ、正確に計測できるメリットがあります。X 線で使用するパラメーターを CT で応用した過去の報告は、ブラジル人の報告は存在しますが、日本人の形態についての報告はなく、また、検者間誤差、検者内誤差についての報告はないのが状況です。
研究方法	2012 年 1 月から 2015 年 12 月まで外傷で救急部を受診し頸椎 CT を撮影した方が対象となります。本研究では、新たな資料の提供の必要はありません。頭蓋骨骨折、脛骨骨折、頸椎脱臼が存在する方を除外とします。頸椎 CT の矢状断、冠状断、水平断のスライスで以下の評価項目を測定します。 Chamberlain 線(mm)、Ranawat (mm)、McRae 線(mm)、McGregor 線(mm)、Amount of ventral cervicomedullary encroachment by odontoid (mm) 、 ADI (atlantodental interval)、PADI (posterior atlantodental interval)、Occipitalcervical angle (degree)、大後頭孔の長径(mm)と横径(mm)、外後頭隆起の厚さ(mm)、外後頭隆起から 1cm 下の厚さ(mm)、C1 外側塊の左右の高さ(mm)、後頭顆の左右の高さ(mm)、斜台の長さ(mm)、内耳孔間距離(mm)、鶏冠の高さ(mm)、鶏冠からトルコ鞍結節前方までの距離(mm)、CCA (clivus-canal angle)、Basal angle
研究機関	自治医科大学附属病院整形外科
個人情報の保護について	匿名化された臨床情報のみを使用いたしますので、住所、名前などの個人情報は秘匿されます。臨床情報は、研究責任者が連結可能匿名化（どのデータが誰のものか対応表でわかるようにするが、データ自体は誰のものかわからないようにする）のうえ電子媒体で提供しますので、本研究に不参加を希望される方は、下記連絡先まで御連絡ください。
結果の公表	学会発表、論文化によって公表する予定はありますが、当院を受診された方の個人情報は一切公表いたしません。
問い合わせ先	【研究責任者】 井上泰一 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1 自治医科大学附属病院整形外科 電話番号：0285-58-7374 【苦情の窓口】 自治医科大学研究支援課 電話番号：0285-58-8933